

提案団体名: 日本テレネット株式会社

○提案内容

<p>(1) 自社の保有するスマートシティの実現に資する技術と実績等 ※スマートシティの実現に資する技術については、別紙3の(1)～(7)の技術分野への対応を記載ください</p>	
技術の概要・実績等	技術の分野
<p>1)IoT、AIを活用した「データプラットフォーム」の開発 医療機関や健康機器、関連サービスとの連携によってデータの横断活用を可能にするシステムをクラウド上に構築。ブロックチェーン技術やAIを活用して、ビッグデータ及びパーソナルデータの収集・分析を容易に実現できるプラットフォームを目指す。 ・健康機器・測定器とのバイタルデータ連携 ・電子お薬手帳、医療系ビックデータとのデータ連携 ・「かかりつけ医」「かかりつけ薬局・薬剤師」とのデータ連携 健康機器の通信プロトコル対応や、電子お薬手帳、電子カルテ等とのデータ連携により、個人の健康データの紐付けを可能とする。 健康・医療データベースによる情報共有と効率化の実現に向けて、柔軟かつ堅牢なシステムを研究開発。</p> <p>2)シニア向けのAIデバイス開発 データプラットフォームと連携するユーザーインターフェースの1形態として、会話型AIデバイスを開発。シニア世代のエンドユーザとの会話から、個別のパーソナルデータを取得・蓄積し、個人の嗜好や行動から、健康寿命の拡大に資するアドバイス・支援を行う。 現在、シニア向けライフサポート実証実験のデバイスとして、AIを搭載したスマートスピーカー開発に着手中。</p> <p>3)電子ピルケースの開発 データプラットフォームと連携するデバイスの一つとして、通信機能を有する電子ピルケースを開発。会話型AIデバイスと連動し、個人ごとに、服薬時間、服薬種類、服薬の有無を管理、蓄積しプラットフォームへフィードバックする。服薬の一元管理を実現し、飲み忘れ、重複服薬を防止する。□</p>	4
<p>(2) (1)の技術を用いて解決する都市・地域の課題のイメージ ※課題については、別紙3の(ア)～(シ)の課題分野への対応を記載ください</p>	
解決する課題のイメージ	課題の分類
<p>1)増大する社会保障給付費の問題をIoT・AI技術で解決 ●2040年には社会保障給付費はGDP比24%(約190兆円)になる見通し ●日本テレネットがこれまで培って来たサービスプラットフォームやIoT・AIを活用する事で超高齢化が進む社会問題に対して貢献 ●シニア世帯に向けて「AIがかなえるスマートな暮らし」を提案し、<u>健康寿命の拡大による社会保障給付費を削減</u></p> <p>2)地域包括ケアシステムのイノベーション ●「<u>かかりつけ医</u>」と「<u>かかりつけ薬局・薬剤師</u>」をつなぐ仕組み(プラットフォームシステム)づくり ●電子お薬手帳と服薬管理システムの連携で<u>残薬問題を解決</u> ●在宅介護普及の課題である「<u>人材不足・高コスト</u>」をIoT・AIで軽減</p> <p>3)スマートコミュニティの実現 ●IoT・AIを活用した「<u>地域の高齢者に寄り添うスマートコミュニティ</u>」の設計 ●AIだけではなしえない、<u>ハイタッチで安心感・信頼感のあるサービスの提供</u> ●<u>地域の文化・個性のあるスマートコミュニティのモデル創りを京都の文化学術研究都市から開始</u></p>	力 健康・医療
<p>(3) その他</p> <p>上記の構想と課題解決のための実証実験を2018年12月から京都府・京都市と連携して開始しています。 詳細は添付資料をご参照下さい。 <添付資料> 「実証実験の概要」</p>	

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
CSS事業	上林 順治	075-211-3441	i-kanbavashi@nippon-tele.net

シニア世帯向けパーソナル・サポートサービス

－ 実証実験 概要－

Life Support  

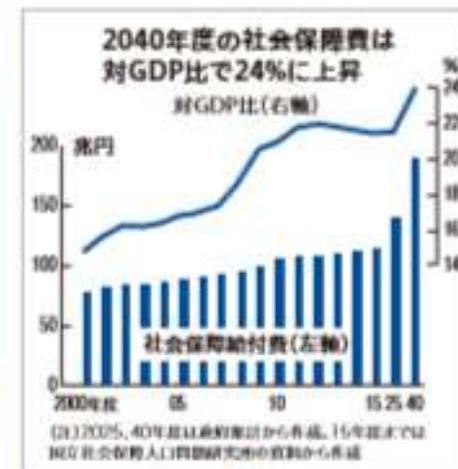
2019年1月 吉日

 日本テレネット株式会社

1. ライフサポート AI・愛 の目指す姿 ～社会へのお役立ち～

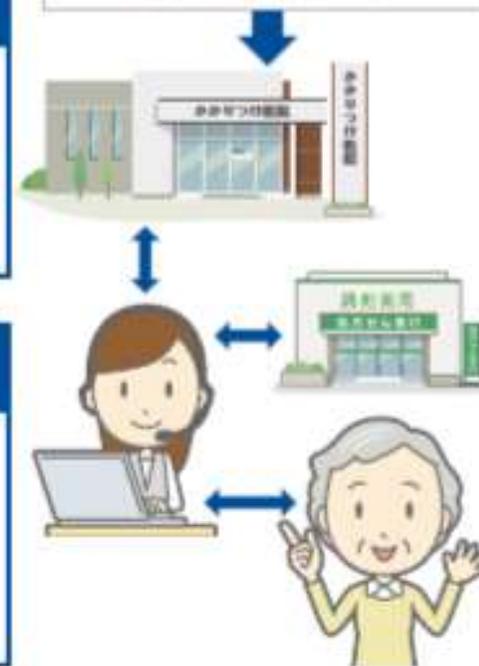
1 増大する社会保障給付費の問題を IoT・AI技術で解決！

- 2040年に社会保障給付費はGDP比24%（約190兆円）になる見通し
- 日本テレネットがこれまで培って来たソリューションやIoT・AIを活用する事で超高齢化が進む社会問題に対して貢献できないか？
- 特に「AIがかなえるスマートな暮らし」を提案したい



2 地域包括ケアシステムのイノベーションを！

- 「かかり付け医院」と「かかり付け薬剤師」をつなぐ仕組み(システム)づくり
- 電子お薬手帳と服薬管理システムの連携で残薬問題を解決
- 在宅介護普及の課題である「人材不足・高コスト」をIoT・AIで軽減



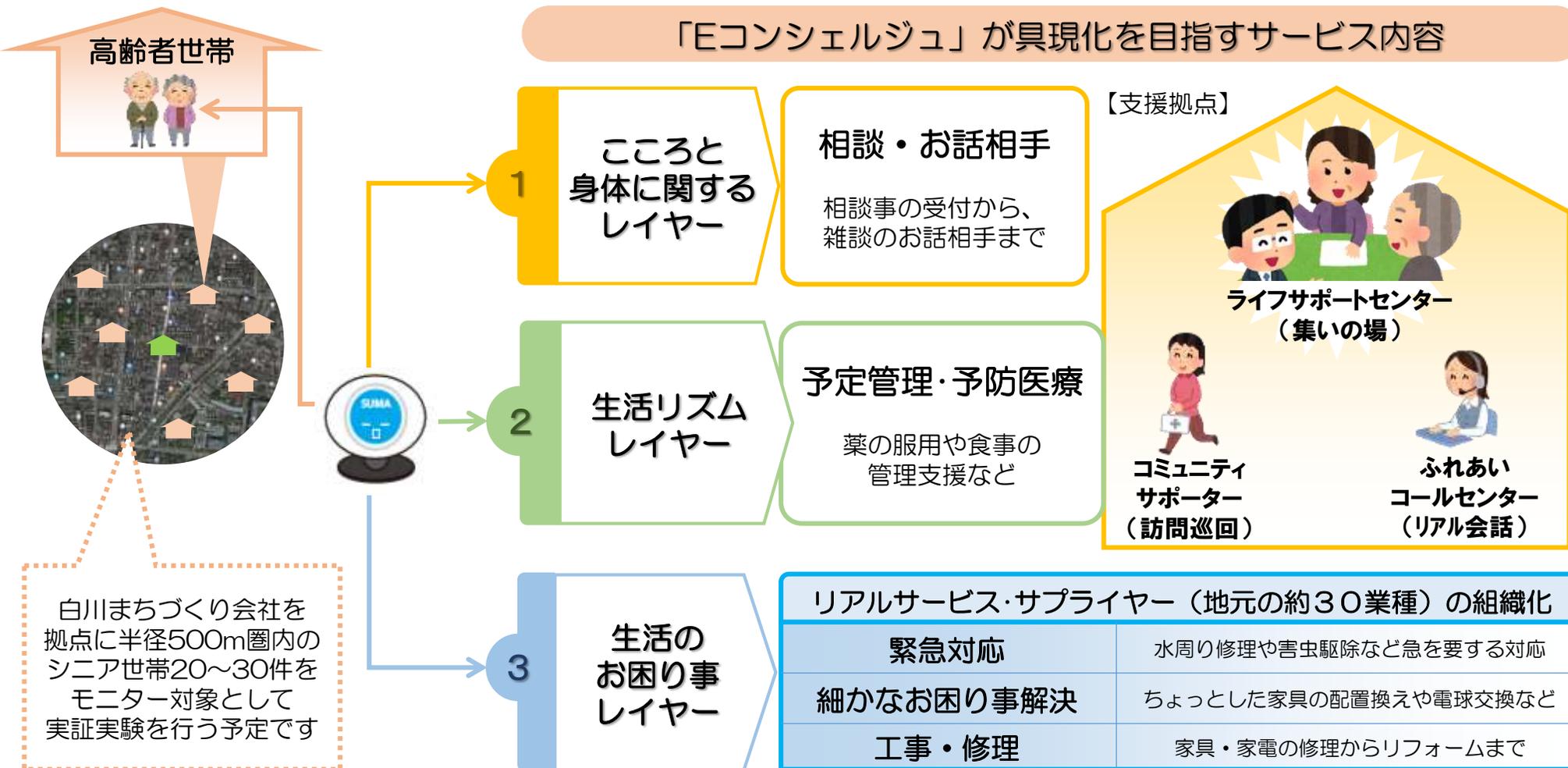
3 スマートコミュニティの実現に向けて！

- IoT・AIを活用した「地域の高齢者に寄り添うスマートコミュニティ」の設計
- AIだけではなしえない、ハイタッチで安心感・信頼感のあるサービスの提供
- 地域の文化・個性のあるスマートコミュニティのモデル創りを白川から開始

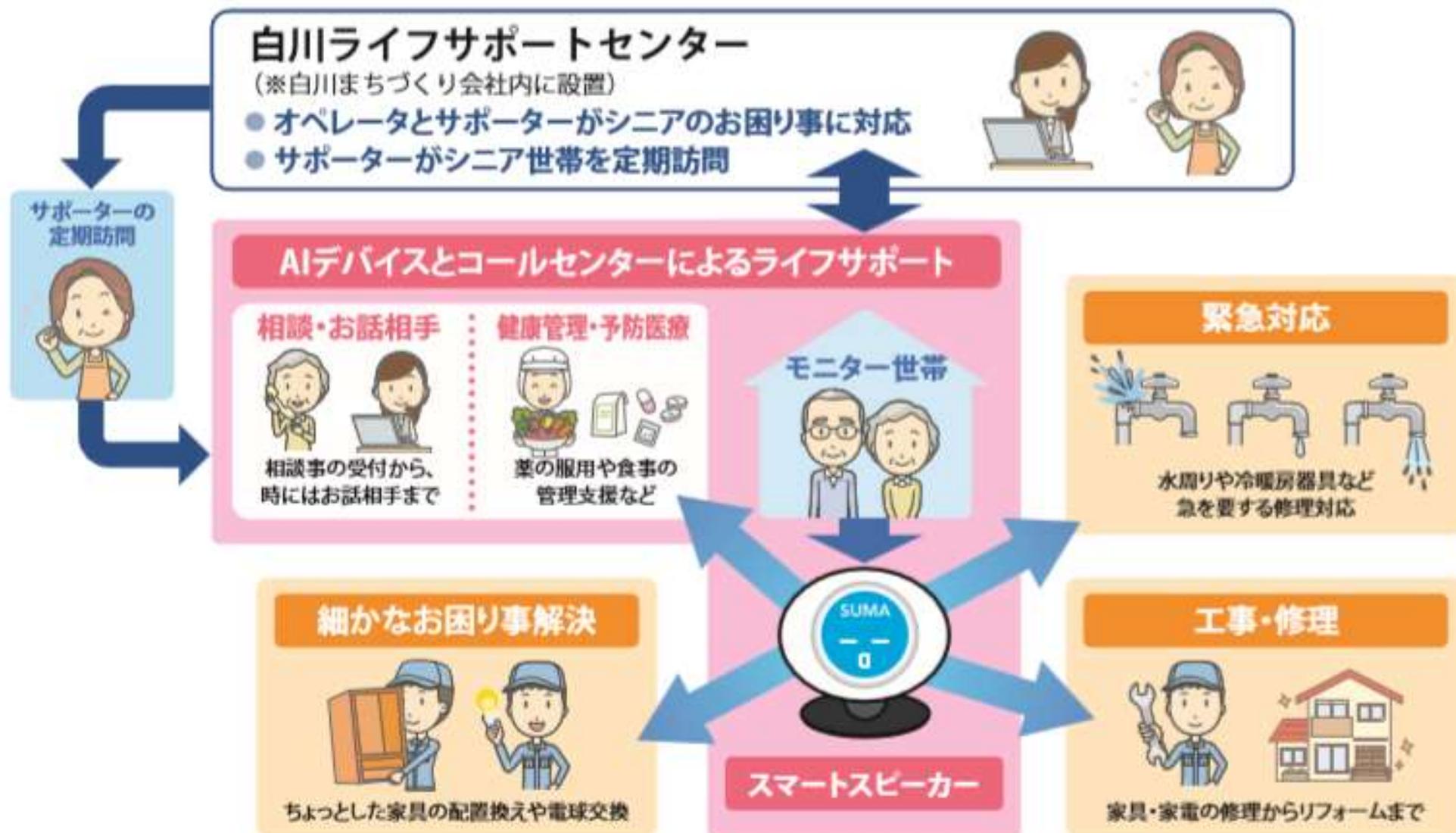
3. 実証実験の全体像

地域の高齢世帯に寄り添うAIデバイスを活用したコミュニティサービスの構築

「Eコンシェルジュ」が具現化を目指すサービス内容



4. シニア世帯へ向けた「実証実験モデル」



5. 実証実験の目的

1 スマートな暮らしの検証

IoTやAIを活用した無駄のない合理的な暮らしを検証する

2 安心・信頼される生活サポートサービスの検証

AIだけではなしえない、ハイタッチで安心感・信頼感のあるサービスを検証する

3 シニア世帯のお困りごとのマッチングシステムの最適化

シニアのニーズに即した短時間かつ簡単な操作でマッチングできるシステムを検証する

4 AIデバイスや周辺機器の課題検証と最適システムの構築

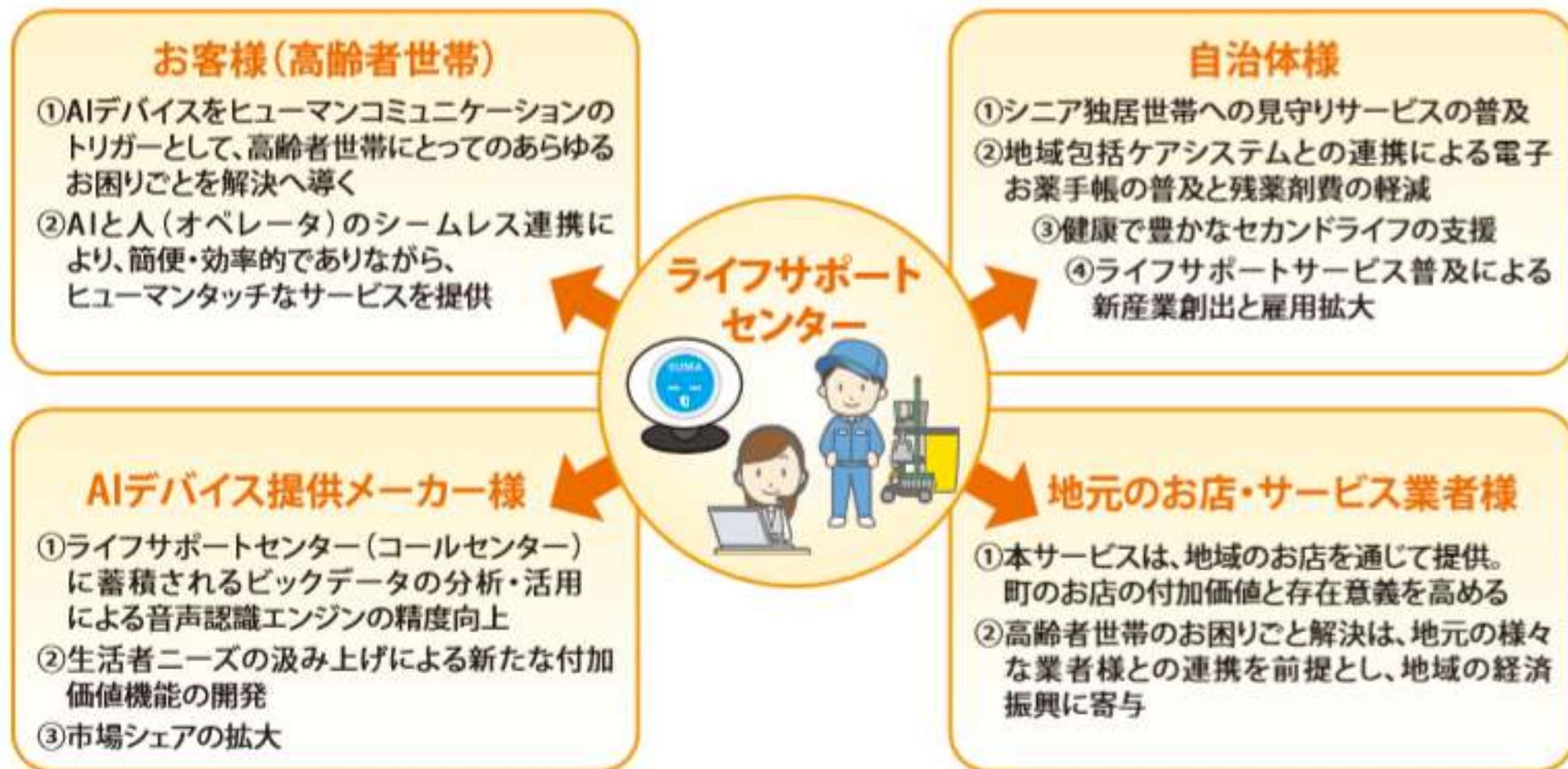
シニアのニーズや行動心理に対応できる技術シーズの検証と最適なシステムを構築する

5 新たな産業創出と雇用創出のためのビジネスモデルづくり

超高齢化時代における社会問題をIoTやAIだけでなく、人の持つ経験や力を活した新たなビジネスモデルを作り、地域密着型の産業創出と雇用創出の可能性を検証する

6. 「白川ライフサポートAI(アイ)愛(あい)」の意義

「白川ライフサポートAI(アイ)愛(あい)」は、お客様となる高齢者世帯だけでなく、自治体様や地元の業者様、AIスピーカ提供メーカー様にもメリットを提供します。



7. 実証実験のモニター募集要項

1 モニター募集人数

- ① 1人暮らし10世帯、
 - ② 夫婦10世帯を選考
- ※1人暮らし世帯は男性5人、女性5人

2 モニター応募条件

- ① 65歳以上のシニア世帯で夫婦または一人暮らしで要介護1以下の方
- ② 日常的に医者から処方された薬を飲んでいる方
- ③ モニター期間の5ヶ月間に個人情報および音声情報のご提供をいただける方

3 モニターの特典

- ① AIスピーカーなど本サービス提供のための周辺機器・環境の無償提供
- ② 日々の生活の中での困りごとの無料相談

8-1. モニターさんの利用状況

モニターAさん 東山区堀池町

- アレクサの新しい機能を探しながら楽しんでます。
- もともとパソコンやスマホを使った社会活動をしており、そのため、アレクサに関して、どんな便利な機能があるか、非常に興味を持っています。
- 毎日アレクサに話しかけながら、楽しんでます。
センターが作った使い方マニュアル「アレクサのしおり」を全部挑戦しています。
- 昨日からカラオケも試しています。アレクサだと、画面が小さくて歌詞が読めない時もあるのですが、画面が大きくなるとかわいくないので仕方がないかなあと思っています。



8-2. モニターさんの利用状況

モニターBさん 東山区三条坊町

- 日々の暮らしの中で、アレクサに声をかけて楽しんでいます。
- 料理のレシピを聞いたりしています。
- 今、アレクサのラジオを聴くのが楽しみです。
- NHKのニュースを聞いています。
- 今度、孫が遊びに来るのですが、子供も孫もアレクサの名前はよく知っていて、今から興味津々のようです。



9. 実証実験の体制

実証実験

『白川ライフサポート AI(アイ)愛(あい)』

1. 実証実験実施主体:日本テレネット株式会社

- ・新サービスの開発提供
- ・AIデバイス及び健康管理システムの開発提供
- ・コールセンターの運営
 - ※オペレーター、コミュニティーサポーターの雇用、教育、マネージメント

2. コミュニティーセンターの運営:白川まちづくり会社

- ・コミュニティーセンターでの健康管理イベントの開催
- ・栗田自治連合会との連携

3. システム開発パートナー

- ・イメージナビ(株)※日本テレネット(株)のグループ会社
- ・株式会社レボーン(東京都)※AIエンジンの開発
- ・PLEN Robotics株式会社(大阪市)※AIデバイス機器の開発
- ・健康デバイスメーカー及び電子お薬手帳システム(未定)

4. 産学共同研究

- ・京都大学医学部などと実験データの分析・活用を検討中

10. AIデバイス開発の概要

◆ フェーズ1(12月～)

- ・AmazonECHO SPOT を使用しての実証実験開始
- ・高齢者とAIスピーカーの親和性の検証
- ・会話ログの収集(vsスピーカー、vsコールセンター、vsサポーター)
- ・ログ分析(レボーン)



◆ フェーズ2(3月～)

- ・ハード:PLEN Robotics社のPLEN CUBEを採用
<http://www.plenrobotics.com/>

※PLEN CUBE 特長

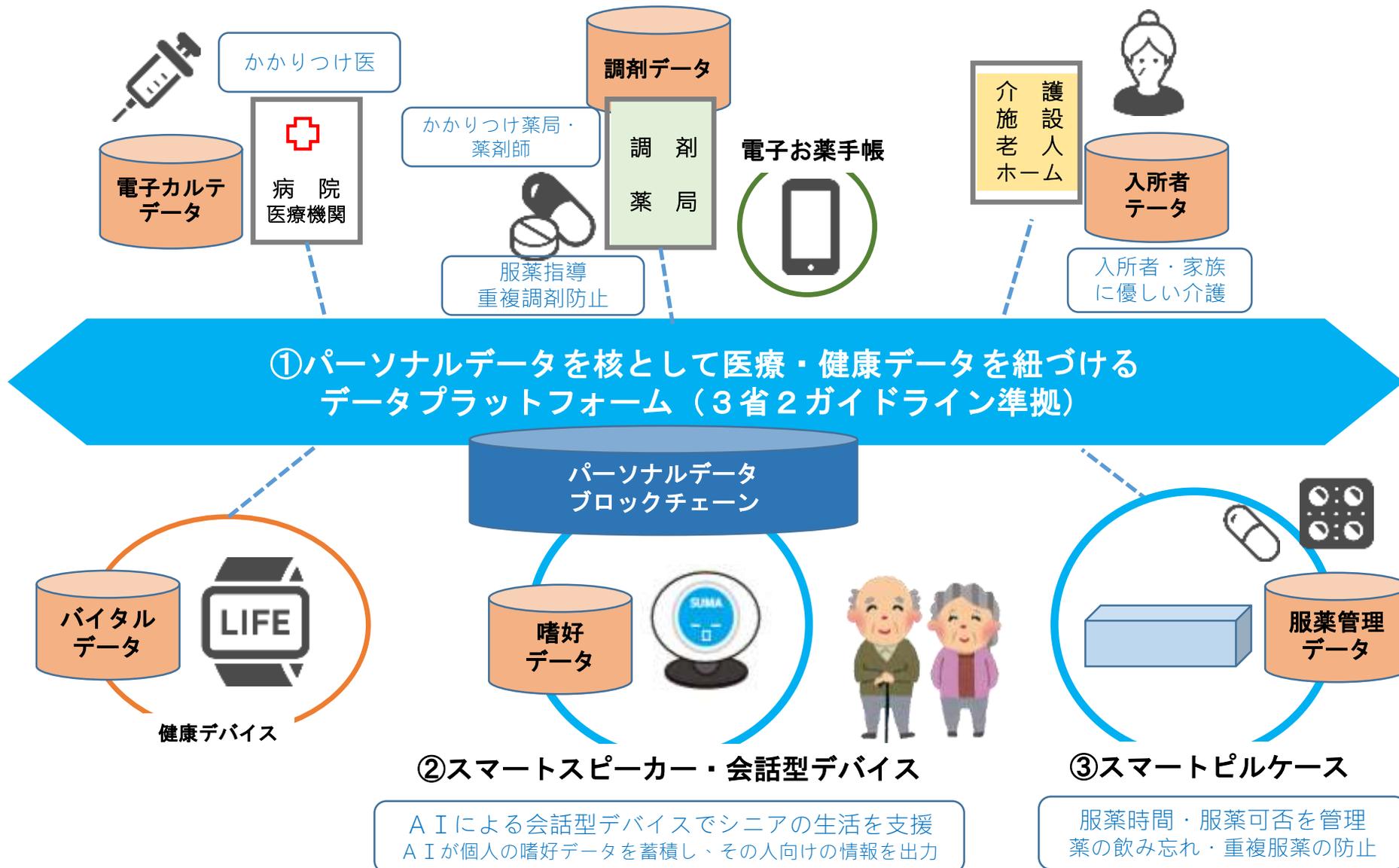
- ①音声認識→音声回答(AIスピーカー機能)
- ②カメラ搭載:撮影機能、顔認証機能
- ③家電コントロール
- ④バッテリー搭載で外出時に持ち出し可能



PLEN CUBE

ソフト:レボーン社にてフェーズ1のログ分析をもとに試作機作成し、カスタマイズ化

11. 次期展開 –データプラットホーム概念図–



12. スケジュール

No	項目	12月	2019年1月	2月	3月	4月
1	実証実験					
2	モニター調査結果分析					
4	AIデバイスの試作機開発					
3	実証実験報告会			月末●		月末●
5	プレス発表	●中旬		月末●		月末●